

# 背景

本研究は、オープンバッジの活用を通して、生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化について調査研究を行いその成果と課題をまとめ今後の取組について考察したものである。本調査研究は文部科学省の「デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」において広島県教育委員会が調査研究の協力機関として実施したものである。

## 文部科学省委託事業概要

### (1) 題目

「デジタル技術を活用した多様な生涯学習の学習履歴の活用に関する調査研究」

### (2) 業務期間

令和5年4月27日～令和6年3月25日まで

### (3) 委託業務の目的

- 地方公共団体等が住民に提供する生涯学習講座等や社会教育分野における称号等に関する学習履歴のデジタル化を推進するため、オープンバッジの作成・発行・管理等の実証を通じて、学習履歴をデジタル化する利点及びその具体的な手法をまとめた教育関係機関向けの手引きを作成する。
- 当該実証を通じて、学習の修了者の受講後の意識や行動変容に係るデータを収集・分析し、効果的な政策立案に資する知見を獲得する。

### (4) 受託企業

株式会社ネットラーニング

# 目的

## オープンバッジを発行することを通じて目指すもの

### ア 県民のデジタルリテラシーの向上

オープンバッジウォレットの登録や、受領したオープンバッジのSNS共有を通して、デジタル技術を利用する機会を提供する。また学習履歴を可視化し、蓄積することのメリットを実感することで、継続的なデジタル技術利用を促す。

### イ 学びの可視化とモチベーションの向上

生涯学習分野でオープンバッジを発行することで、プロセス（学習過程）としての個々の人の学びの証明を行い、オープンバッジの利用を通して学びのモチベーション（意欲）を高め、それを維持し、自発的な学習を促す。

### ウ 「学び」を通じたコミュニティの活性化

社会教育分野でオープンバッジを発行することで「学び」を通じた人と人とのつながりや絆の深まりを促し、コミュニティの活性化を目指す。

# 方法

本調査研究では、当センターの事業のうち、次の五つの研修及び講座の受講証明として、オープンバッジを発行した。

- 令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【社会教育主事等研修】社会教育経営編
- 令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修【社会教育主事等研修】生涯学習支援編
- アウトリーチ型家庭教育支援研修
- 「「親の力」をまなびあう学習プログラム」（以下「親プロ」とする。）ファシリテーター養成講座
- 親プロファシリテーターフォローアップ講座

オープンバッジ発行対象研修の最初にオープンバッジの説明を行い、全員に1回目アンケートを実施する。オープンバッジ受領を希望する人には、個人情報取扱に係る同意書に署名をいただく。令和5年10月までにオープンバッジを受領された方を対象に、12月末に2回目アンケートを実施し、オープンバッジの活用や受領後の生活や気持ちの変化について、情報を収集し分析を行う。

## 調査研究の仮説及び検証の視点と方法

### 1 調査研究の仮説

オープンバッジの活用を通して、生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化を行うことで、人々はデジタル技術に触れることができ、研修や講座に対する学習意欲が高まったり、学びを通じた人と人とのつながり等のコミュニティの形成を図ったりすることができるであろう。

### 2 検証の視点と方法

表1 検証の視点と方法

検証の視点	方法
1 県民のデジタルリテラシーの向上（ア）	・2回目アンケート ・1回目・2回目アンケートの突合データ

2 学習意欲の向上 (イ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2回目アンケート</li> <li>・ 1回目・2回目アンケートの突合データ</li> <li>・ 受領者インタビューでの意見 (省略)</li> <li>・ 受領者交流会での意見 (P 5)</li> </ul>
3 学びを通じたコミュニティの活性化 (ウ)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 2回目アンケート</li> <li>・ 受領者インタビューでの意見 (省略)</li> <li>・ 受領者交流会での様子</li> <li>・ 受領者交流会振り返りアンケート</li> </ul>

## オープンバッジ発行のプロセスと実際

### 1 オープンバッジ発行のための団体登録

オープンバッジの発行を行うために、オープンバッジならびに、デジタル証明の登録業務サービスを行っている財団に団体登録を行う。その際、団体名及び団体ロゴの登録が必要であることから、当センターのロゴを作成する。

表2 当センターロゴとロゴに表現した思い

当センターのロゴ	ロゴに表現した思い
	<p><b>文字</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 団体名は日本語と英語の2種類で表記。</li> <li>・ 当センターの愛称である「ぱれっとひろしま」は、当センターのホームページと色やフォント等の表記を統一。</li> </ul> <p><b>枠</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 愛称の「ぱれっとひろしま」に込められた「たくさんの色が絞り出されたパレットのように、多目的で夢のある施設」を表現。</li> </ul> <p><b>人型ピクトグラム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 多様な人と人、人と学びをつなぐことを表現。</li> </ul>

### 2 オープンバッジのメタデータ及びバッジデザイン作成

調査研究の対象となる研修及び講座のメタデータ及びバッジデザインを作成する。

#### (1) メタデータ

メタデータとは、オープンバッジの画像データに記載するオープンバッジの内容説明であり、バッジ名や研修の説明等である。メタデータは、該当研修内容に馴染みのない第三者が見てもイメージが湧くように、受領者がスキルを活用する場について記載する。ここでは、アウトリーチ型家庭教育支援研修を例に説明する。

表3 アウトリーチ型家庭教育支援研修メタデータ及びバッジデザイン

バッジ名	アウトリーチ型家庭教育支援研修
説明	家庭教育支援とは、保護者が家庭教育を行う上で必要となる学びを支援するために、各自治体において保護者に対し、学習機会や情報の提供等を行うものであり、家庭教育支援チームは、保護者の皆さんが安心して子育てや家庭教育ができるように支援する役割を担います。アウトリーチ型家庭教育支援研修では、子供や保護者の現状や抱える課題を共感的に理解し、身近な地域住民として相談に応じるなどの保護者に寄り添う活動が展開できるよう、求められるスキルを習得します。
取得条件	<ul style="list-style-type: none"> <li>●内容・目的 <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 「説明」家庭教育支援に求められている現状及び課題について、理解を深める</li> <li>2. 「講義」保護者への共感的理解の方法や、傾聴等を含めた対応方法について理解する</li> <li>3. 「演習」ロールプレイングやケーススタディを通して、話しやすい状況づくりや支援者としての考えを深める</li> </ol> </li> <li>●対象 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭教育支援チーム</li> <li>・ 家庭教育支援に携わる関係者 (親プロファシリテーター、読み聞かせボランティア、放課後子供教室支援員等)</li> </ul> </li> <li>●修了条件・実績 <ul style="list-style-type: none"> <li>アウトリーチ型家庭教育支援研修【第1回】または【第2回】の受講</li> </ul> </li> <li>●資格・スキル活用場 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校入学説明会における子育て相談</li> <li>・ 参観日後の子育て相談 等</li> </ul> </li> </ul>
外部共有	On
タグ： スキルカテゴリ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 家庭教育支援</li> <li>・ コーディネート</li> <li>・ ファシリテーション</li> <li>・ 傾聴</li> <li>・ 話しやすい場づくり</li> <li>・ 多様な特性の理解</li> <li>・ 共感的理解</li> <li>・ 寄り添い型支援</li> </ul>
エビデンス	研修修了日
	<p><b>アウトリーチ型家庭教育支援研修のバッジデザイン及び作成において考慮したこと等</b></p> <p>お父さん・お母さん・子供というイメージにならないよう、子供の要素を遊具で表現。家庭教育支援は、学校・公民館等、地域全体で行うため、街のシルエットを使用。子供たちを育てる土壌をイメージして黄土色を使用。心が寄り添うイメージでハートを使用。</p>

## (2) 当センター発行のオープンバッジのデザイン

表4 当センター発行のオープンバッジのデザイン

バッジデザイン			
親プロファシリテーター 養成講座	親プロファシリテーター フォローアップ講座	社会教育主事等研修 社会教育経営編	社会教育主事等研修 生涯学 習支援編
			

## 結果

### 1 オープンバッジ発行数及び受領数

令和6年3月末までに当センターが発行したオープンバッジは、127個で98名が受領した。複数受領した人は、4個受領が1名、3個受領が3名、2個受領が20名だった。表5はオープンバッジ発行対象研修・講座の受講者数・オープンバッジ希望者数・希望率を示したものである。(N=母集団のサイズ、n=サンプルサイズ(以下同様))

表5 オープンバッジ発行対象研修・講座の受講者数・オープンバッジ希望者数・希望率

N=146

研修・講座名	受講者数(人)	希望者数(人)	希望率(%)
令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修 【社会教育主事等研修】社会教育経営編	25	21	84.0
令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修 【社会教育主事等研修】生涯学習支援編	23	22	95.7
アウトリーチ型家庭教育支援研修	46	39	84.8
親プロファシリテーター養成講座	34	32	94.1
親プロファシリテーターフォローアップ講座	18	13	72.2
合計	146	127	87.0

表6は、オープンバッジ発行数及び受領数・受領率を示したものである。オープンバッジの受領率は95.3%となり、オープンバッジの発行を希望したが受領手続きをしていない人は6名だった。

表6 オープンバッジ発行数及び受領数・受領率

n=127

研修・講座名	発行数(個)	受領数(個)	受領率(%)
令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修 【社会教育主事等研修】社会教育経営編	21	21	100
令和5年度生涯学習振興・社会教育行政関係職員等研修 【社会教育主事等研修】生涯学習支援編	22	21	95.5
アウトリーチ型家庭教育支援研修	39	38	97.4
親プロファシリテーター養成講座	32	29	90.6
「親プロ」ファシリテーターフォローアップ講座	13	12	92.3
合計	127	121	95.3

### 2 オープンバッジ受領者の属性

1回目アンケートの結果から、オープンバッジ受領者の属性について、表7及び表8に示す。

表7 オープンバッジ受領者の年齢

n=98

年齢	人数(人)	分布率(%)
20歳未満	0	0
20歳代	3	3.1
30歳代	12	12.2
40歳代	35	35.7
50歳代	29	29.6
60歳代	15	15.3
70歳以上	4	4.1

表7は、オープンバッジ受領者の年齢を示したものである。40歳代が一番多く、40歳代及び50歳代を合わせた人数は、オープンバッジ受領者の6割を越えていることが分かる。

表8は、オープンバッジ受領者の所属市町を示したものである。広島県23市町中、16市町にオープンバッジ受領者が存在し、一番多かったのは親プロファシリテーター養成講座を年に2回実施した廿日市市だった。

表8 オープンバッジ受領者の所属市町

n=98

年齢	人数(人)	分布率(%)
広島市	16	16.3
呉市	1	1.0
三原市	1	1.0
尾道市	10	10.2
福山市	9	9.2
府中市	3	3.1
三次市	2	2.0
東広島市	9	9.2
廿日市市	23	23.5
安芸高田市	2	2.0
江田島市	5	5.1
府中町	12	12.2
海田町	1	1.0
坂町	1	1.0
北広島町	1	1.0
世羅町	2	2.0

### 3 デジタル証明

オープンバッジについての認知度及び受領経験についてまとめた。複数受領している人は、最初にオープンバッジを受領した研修・講座のアンケート結果をカウントした。「オープンバッジ」という単語を以前に聞いたことがある人は26人で、26.5%だったが、受領経験のある人は1名で、1%だった。

図1は、修了証として、どのような証明書を発行してほしいかについて、グラフにまとめたものである。複数受領している人は、最初にオープンバッジを受領した研修・講座のアンケート結果をカウントした。修了証は紙でほしいと回答した人は1名で、今回はオープンバッジの発行を希望しているが、「デジタルは出力して保管する手間がかかる」と回答している。デジタルでほしいと回答した人は44名で44.9%、紙とデジタルと両方ほしいと回答した人は53名で54.1%となった。デジタルを希望した人は、「いつでも確認できる」「紙で持っていて必要な時に取り出せない」「今後に向けてはデジタルでよい」等と回答し、両方を希望した人は、「デジタルのみだと不安」「まだまだデジタルが浸透していないので、しばらくは両方ほしい」「紙が必要な場面もある」等と回答している。

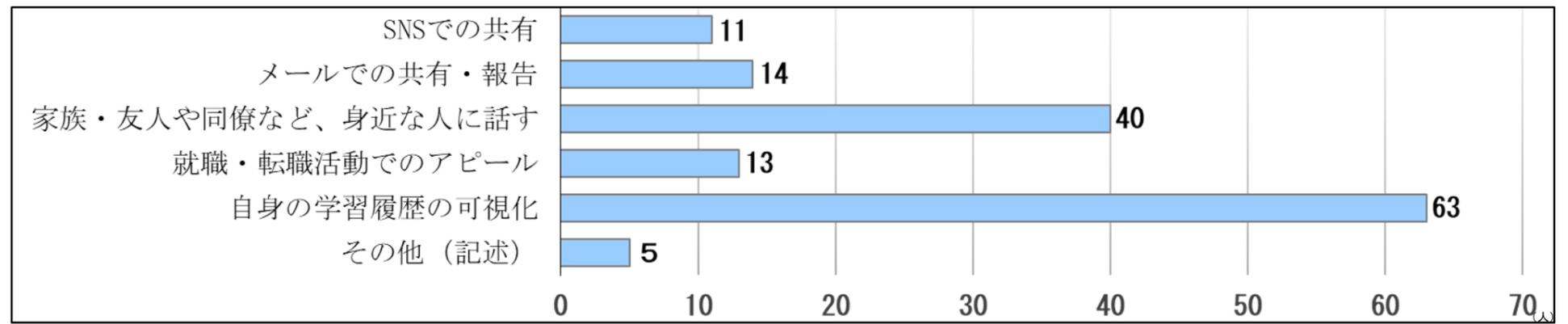
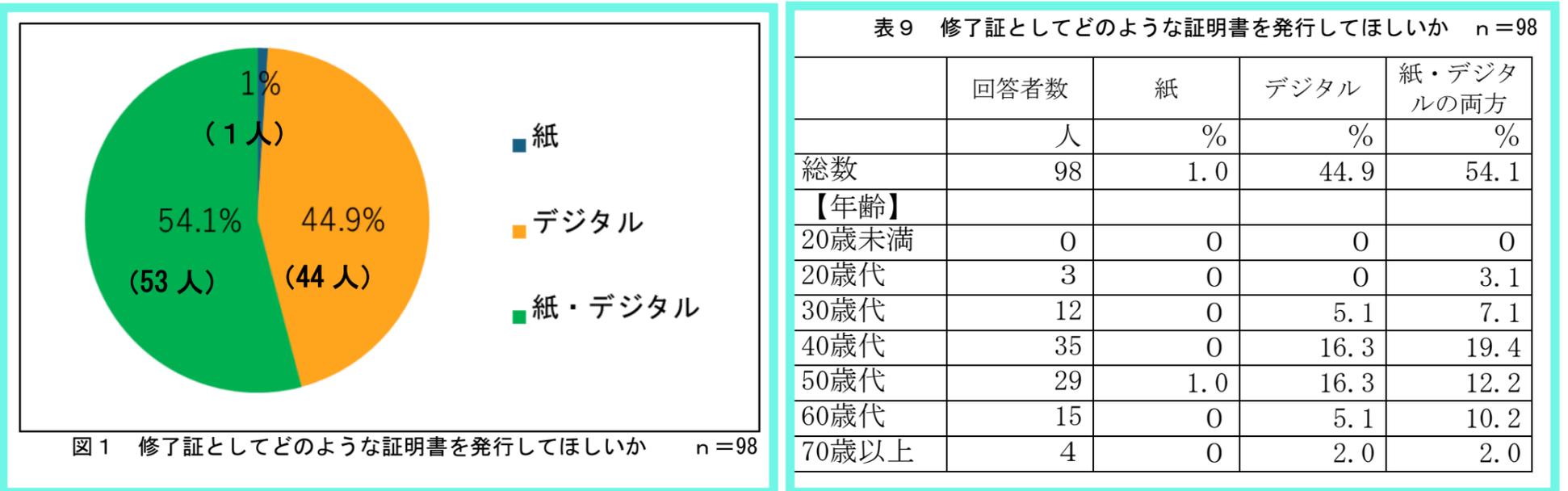


図2 オープンバッジ受領後どのような活用ができそうか（複数回答可） n=98

図2は、オープンバッジ受領後どのような活用ができそうかについてまとめたものである。自身の学習履歴の可視化と回答した人は63名で全体の64.3%となった。次に、家族・友人や同僚など身近な人に話すと回答した人が40名で、40.8%となった。その他と回答した5名は、「よく分からない」「活用までいかない」等と回答している。

### 4 オープンバッジ受領者交流会

株式会社ネットラーニングと合同で、オープンバッジ受領者交流会を行った。

- 日 時 令和6年1月24日（水）18時から19時まで
- 場 所 オンライン（Zoom）
- 方 法 グループに分かれて意見交流
- 対 象 オープンバッジ受領者
- ねらい

社会教育・生涯学習分野における学習意欲の向上及びオープンバッジ受領者同士のコミュニティ形成を図る。

- グループ分け

受領者を受領したオープンバッジの種類ごとに四つのグループに分け、株式会社ネットラーニングと当センターの職員がコーディネーターとして各グループに入る。

- トークテーマ（分析の四つの視点）
- ①オープンバッジの発行者及び受領者双方の立場での活用方法について
- ②所属市町でオープンバッジが発行できそうな事業について
- ③オープンバッジの課題について
- ④オープンバッジアイデアについて

受領者同士がどのような意見を交流したのかテキストマイニングを使って分析を行った。  
(<https://textmining.userlocal.jp/>)

トークテーマ①オープンバッジの発行者及び受領者双方の立場での活用方法について、スコア順の結果を図3、出現頻度順の結果を図4に示す。スコア順では、「エリアマネジメント」「多文化共生」「社会教育」等が大きく現れた。「受領したオープンバッジをどこで生かせるかが重要」「エリアマネジメント・福祉・多文化共生等のフィールドで生かせるのではないか」「他の社会教育分野でも活用できそう」等の意見が出された。また、「生かすというよりも「マイルストーン」として市民に持ってもらう方が、情報交換や内輪のネットワーク等で活用できる」等の意見も出された。出現頻度順では、「持つ」「見せる」「分かる」「できる」等が大きく現れた。「バッジを見せて同じバッジだったら共通の話題に繋げやすい」「勉強したことが目に見えて分かる」「持っている人がいるんなどころにいて、それをうまく使って情報共有できたり、自分の企画のアドバイスをもらったりできたら有難い」等の意見が出された。

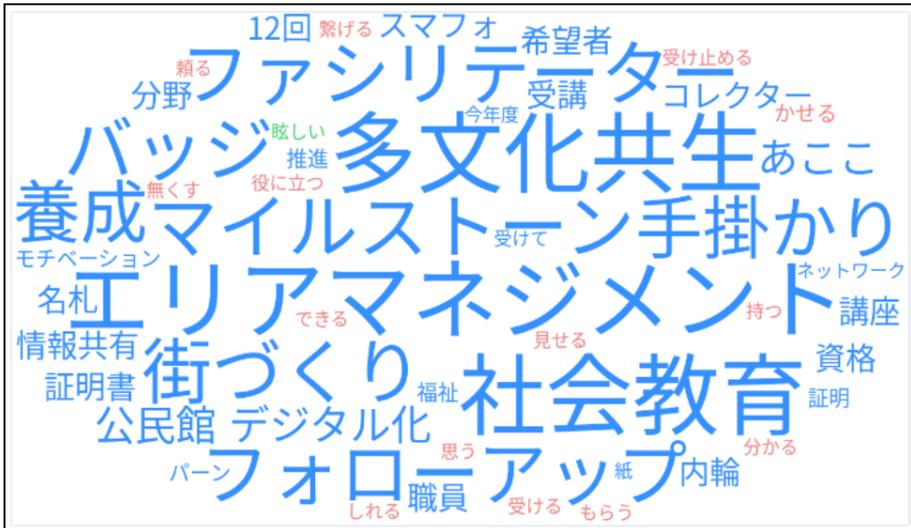


図3 トークテーマ①スコア順の結果

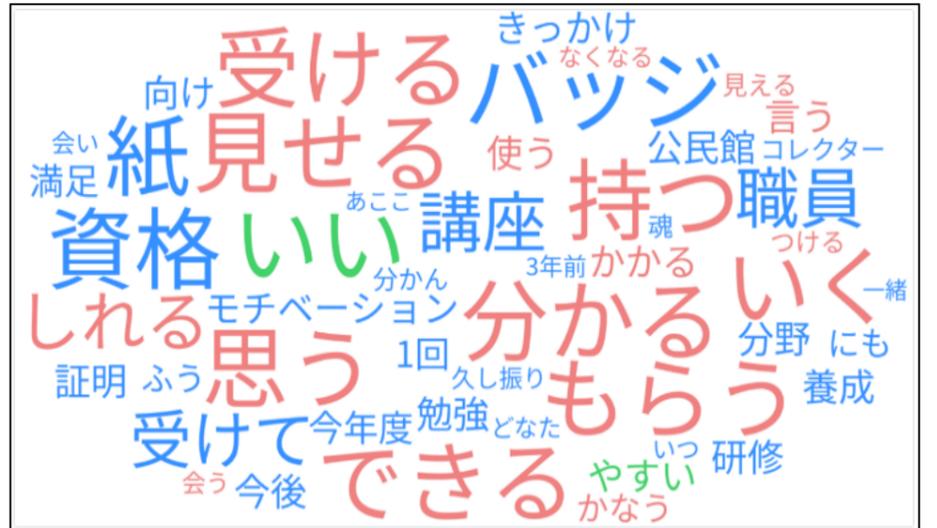


図4 トークテーマ①出現頻度順の結果

トークテーマ②所属市町でオープンバッジが発行できそうな事業について、スコア順の結果を図5、出現頻度順の結果を図6に示す。スコア順では、「ウェルビーイング」「ボランティア」「活動履歴」等が大きく現れた。「ボランティア等される方の活動を価値付けたい」「ボランティアと言いつつ、ボランティアの方々の御厚意に甘えているところが多々ある」「活動履歴が分かるとよい」「時代に即したウェルビーイング。それぞれのやりがいに価値を」等の意見が出された。出現頻度順では、スコア順で出現した単語の他に「いい」「すごい」「面白い」等が大きく現れた。特に、「いい」は17回出現しており、意見交流の中で他者が発言した内容に対し「いいですね」と共感する場面で多く出現した。

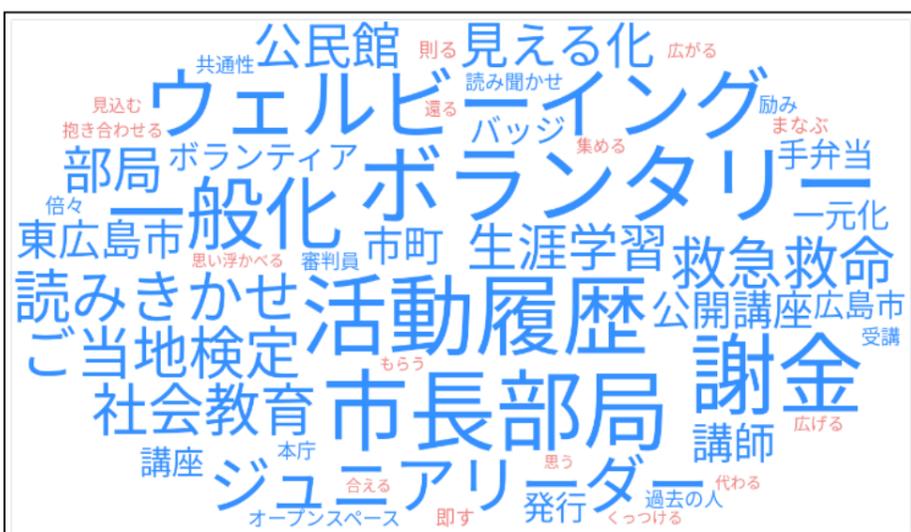


図5 トークテーマ②スコア順の結果

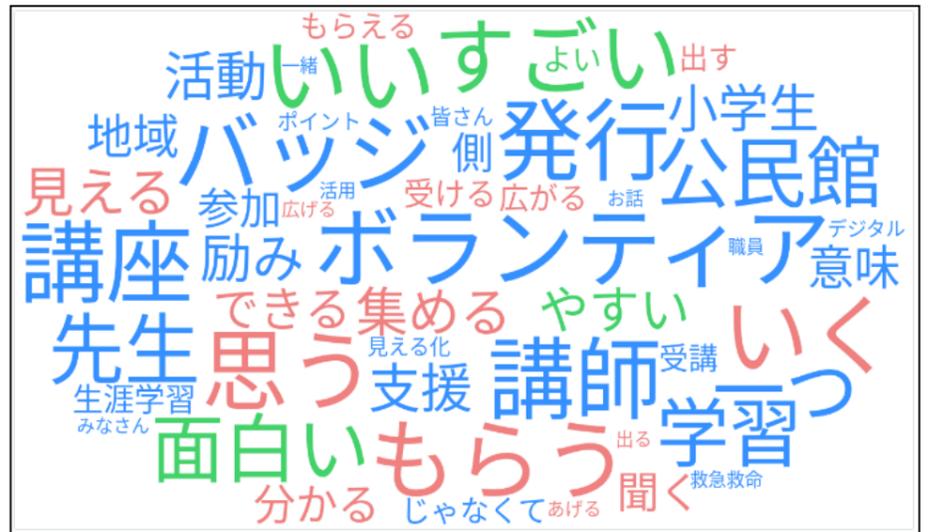


図6 トークテーマ②出現頻度順の結果

トークテーマ③オープンバッジの課題について、スコア順の結果を図7、出現頻度順の結果を図8に示す。スコア順では、「生涯学習」「社会教育」「一般化」「標準化」等が大きく現れた。「もっとオープンバッジの活用が増え、メジャーにならないと何とも言えない」という意見に対し「携帯電話も無い時代。公衆電話で文字だけ打つ時代があった。携帯電話が出てきて、今はスマートフォンが当たり前になったと考えたら10年後にはオープンバッジが当たり前になるかもしれない」等の意見が出された。出現頻度順では、「アピール」「活用」「認知」等が大きく現れた。「認知されなさ過ぎて、アピールするニーズがない」「オープンバッジを受領しても、所属している組織がそれを尊重する気が無ければ何の役にも立たない」「活用する側も重要」等の意見が出された。

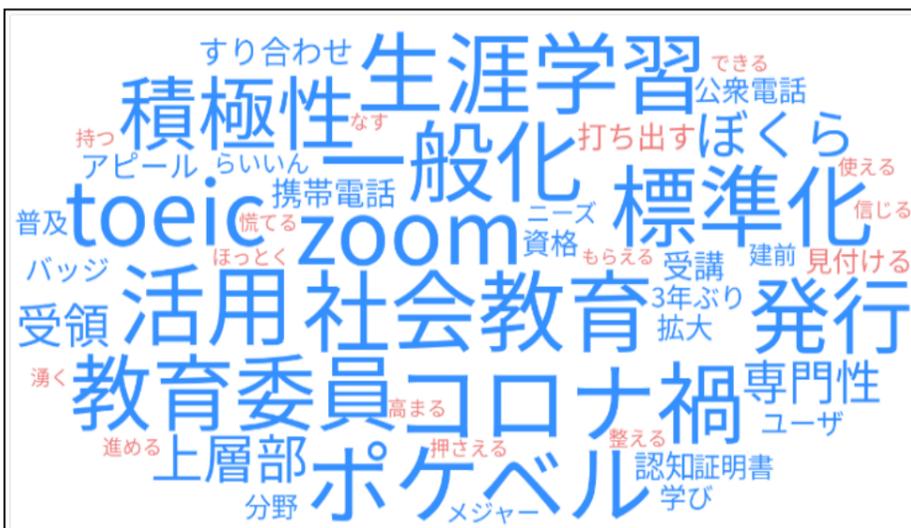


図7 トークテーマ③スコア順の結果

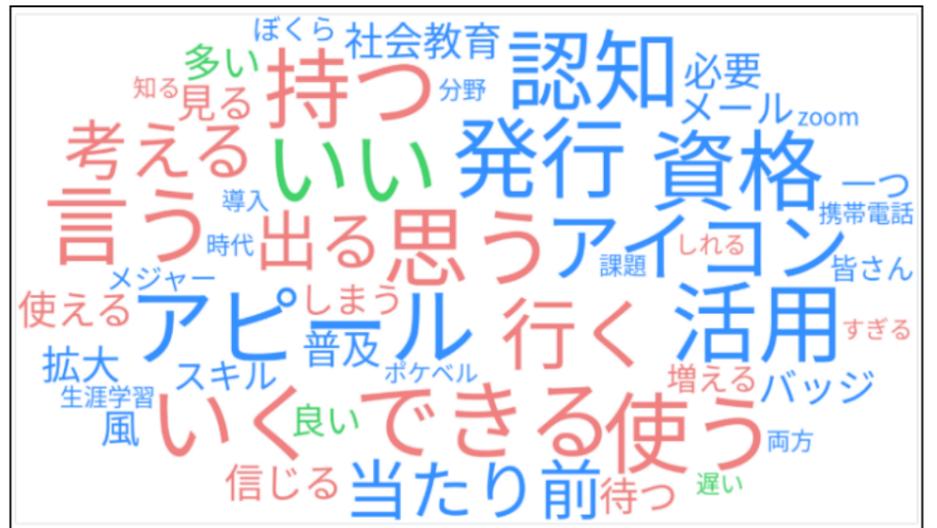


図8 トークテーマ③出現頻度順の結果

トークテーマ④オープンバッジアイデアについて、スコア順の結果を図9、出現頻度順の結果を図10に示す。スコア順では、「ピンバッジ」「7色」等が大きく現れた。「オープンバッジを広めるために本当にリアルなバッジを作るもの面白い」「ピンバッジだったらカッコいい」「人に見せたら動くテンションが上がりそう」「7色バッジはプレミアム感がある」等の意見が出された。出現頻度順では、「受ける」「もらえる」「頑張る」等が大きく現れた。「コレクター魂に火をつけるなら、5回受けたらちょっと大きめのバッジが追加でもらえる等のオプションがあるとよい」「3回受けるとキラキラバッジがもらえるなら、頑張りたいと思う」等の意見が出された。



図9 トークテーマ④スコア順の結果

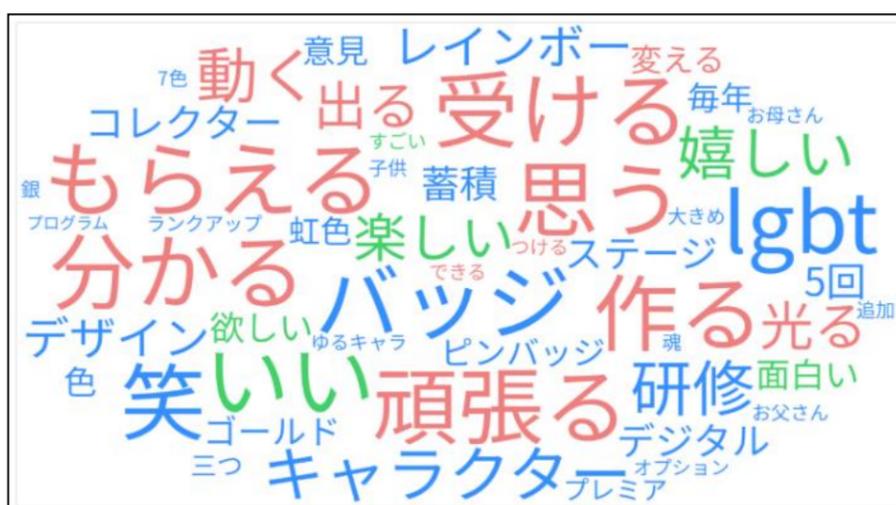


図10 トークテーマ④出現頻度順の結果

## 考察

### 1 県民のデジタルリテラシーの向上（ア）について成果があったか

オープンバッジ発行対象研修・講座の受講者146名のうち、オープンバッジの希望者は127名となり87.0%にデジタル技術を利用する機会を提供することができた。

#### (1) 2回目アンケートの結果から

「オープンバッジが今後、自身にとって役立つと思うか」について、それぞれの回答の割合を図11示す。

肯定的回答「とてもそう思う」「そう思う」と回答した人の割合は40.9%となり、否定的回答「そう思わない」「まったくそう思わない」の4.5%を大きく上回った。肯定的回答の理由には、「研修の受講歴を簡易に見える化できるため」「デジタル化やペーパーレス化の社会では必須だと思う」等が挙げられた。また、「どちらともいえない」と回答した理由には、「これまで他で見聞きしたことがない」「オープンバッジについての周知・認知度が低い」等が挙げられ、否定的回答の理由には、「自分のやりたいことにあまり関係がない」等が挙げられた。

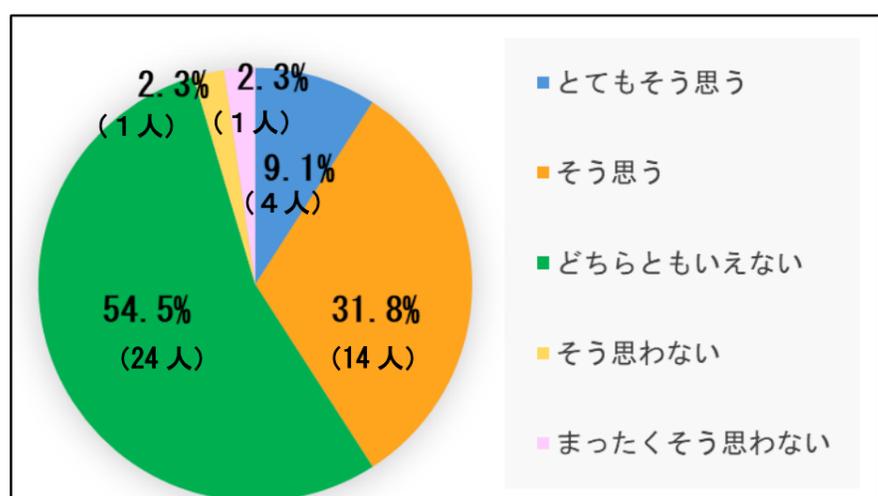


図11 オープンバッジが今後、自身にとって役立つと思うか n=44

この結果から、オープンバッジを活用することは「学習履歴を可視化・蓄積することのメリットを実感することで、継続的なデジタル技術利用を促すこと」について、一定の成果があったと考える。

次に、項番8及び項番10「オープンバッジの取得を他の人に勧めたいと思うか」について、クロス集計した結果を、図12に示す。項番8の肯定的回答をピンク、項番10の肯定的回答（ここでは、11段階の「6」以上とする。）を水色、両方が重なる部分を紫色で表す。項番8は、自身について問われており、肯定的回答は18名で40.9%、項番10は、他者について問われており肯定的回答は16名で36.4%、両方肯定的回答は13名で29.5%、両方否定的回答は21名で47.2%となった。

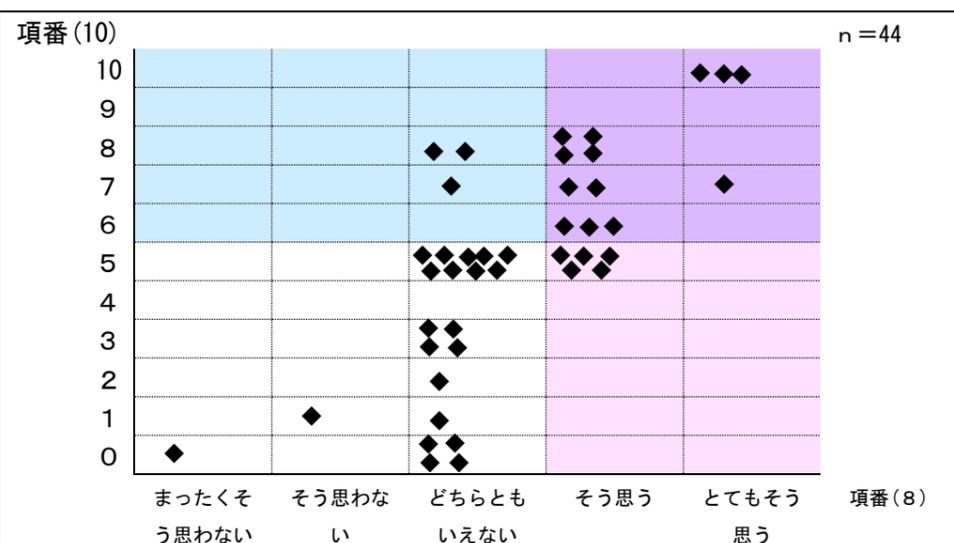


図12 オープンバッジの取得を他の人に勧めたいと思うか n=44

項番10で「10」と回答した人は3名で、「学習したことの証明になるから良い」「広めて認知された方が活用が進むから」等と回答している。「5」と回答した人は9名で一番多く、「現状、活用法が少ない」「自分がまだ理解していないことを他人には勧められない」等と回答している。「0」と回答した人は5名で、「バッジがあってもなくても（自分の活動は）変わらない」等と回答している。また、「6」以上の回答をした16名のうち13名が複数のオープンバッジを受領しており、項番8においても概ね肯定的な回答をしていることから、複数受領することによってオープンバッジを集める楽しさや、オープンバッジの価値に気付き、他者に勧めたいという回答に繋がったのではないかと考える。これらのことから、オープンバッジを複数受領することは、継続的なデジタル技術利用を促すことにつながると考える。また、オープンバッジの認知度を高めることや受領者を増やすこと等が必要であると考えられる。

#### (2) 1回目・2回目アンケートの突合データの結果から

1回目・2回目アンケートにおいて、「修了証として、どのような証明書を発行してほしいか」という設問に対し、回答に大きな差は見られなかった。しかし、1回目アンケートでは、「紙」と回答したのは1名だったが2回目アンケートでは3名に増えており、「デジタルは操作方法が分からない」等と回答している。オープンバッジを受領してみたが使い

方が分からず、活用していないため紙がよいという理由が挙げられていた。

このことから、「学習履歴を可視化・蓄積することのメリットを実感することで、継続的なデジタル技術利用を促すこと」について、受領者が可視化した自身の学習履歴を活用する場や、受領したことのメリットが感じられる場が必要であると考えられる。

## 2 学びの可視化とモチベーションの向上（イ）について成果があったか

### (1) 2回目アンケートの結果から

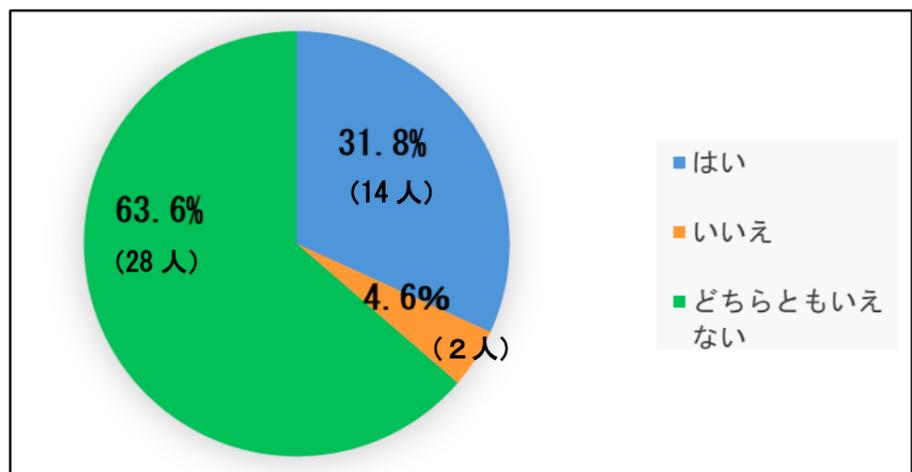


図13 他のオープンバッジを取得してみたくなかったか n=44

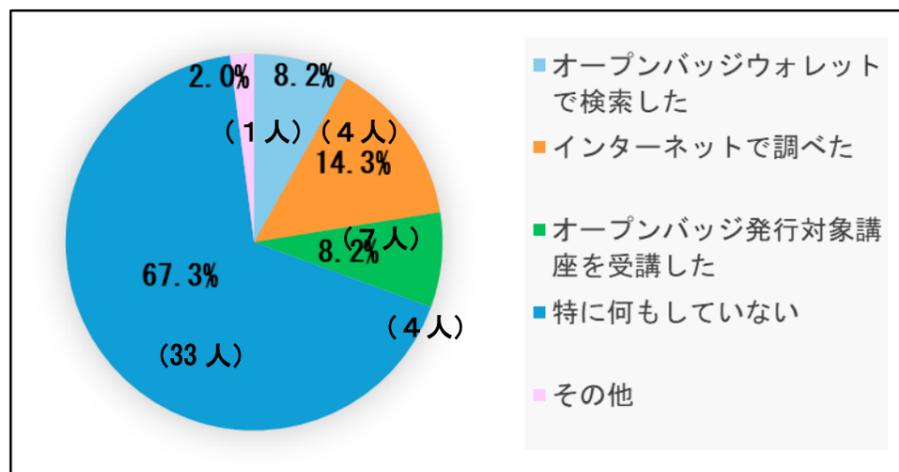


図14 オープンバッジが発行される講座について（複数回答可） n=44

項番2「他のオープンバッジを取得してみたくなかったか」について、それぞれの回答の割合を図13に示す。「はい」と回答した人は31.8%で「いいえ」と回答した人の4.6%を上回った。「どちらともいえない」が63.6%で過半数を超えた。項番3「オープンバッジが発行される講座について」について、それぞれの回答の割合を図14に示す。

オープンバッジを受領後、オープンバッジが発行されている他の講座について、「オープンバッジウォレットで検索した」と回答した人は4名で8.2%、「インターネットで調べた」と回答した人は7名で14.3%、「オープンバッジ発行対象講座を受講した」と回答した人は4名で8.2%となり、肯定的回答をした人は合計15名で34.1%となった。

これらのことから、「オープンバッジの利用を通して学びのモチベーション（意欲）を高め、それを維持し、自発的な学習を促すこと」について3割程度効果があったと考える。

### (2) 1回目・2回目アンケートの突合データの結果から

1回目アンケート項番15において、「身に付けたいスキル、学びたい内容」については「ファシリテーション」が一番多く、11名が回答したが、その他の項目は回答者が1名から4名となり、回答内容が多岐に渡った。2回目アンケート項番3において、「バッジを受領した講座以外の研修や講座を受講する予定がなかった」と回答した人が一番多かったことから、当センターが主催する研修及び講座以外にも、学びたい、身に付けたいことがあることが分かる。また、当センターの研修及び講座のうち、五つのみオープンバッジ発行対象研修・講座としていたため、オープンバッジをきっかけに学びのモチベーションが高まるというところまで至っていないことが考えられる。そのため、今後生涯学習分野でのオープンバッジ発行対象研修・講座を拡大することで、あらゆるスキルや学習履歴をオープンバッジで証明することが、学びのモチベーションを高めることにつながると考える。

### (3) 受領者交流会での意見

「オープンバッジはモチベーションの向上につながるのか」について、「デジタルの蓄積を評価してもらえたら嬉しい」「コレクター魂に火をつける」「遠慮している人でも参加してみたくなるきっかけの一つになる」等の肯定的意見が出る一方、「今年度はオープンバッジが欲しくて受講したのではなく受講したらもらえた」等の意見も出された。このことから、オープンバッジを活用することは、学びのモチベーションの向上につながるが、同じ分野の複数の研修・講座でオープンバッジを発行する等、一つ受領することで学びのモチベーションが高まるような取組が必要であると考えられる。

## 3 「学び」を通じたコミュニティの活性化（ウ）について成果があったか

### (1) 2回目アンケートの結果から

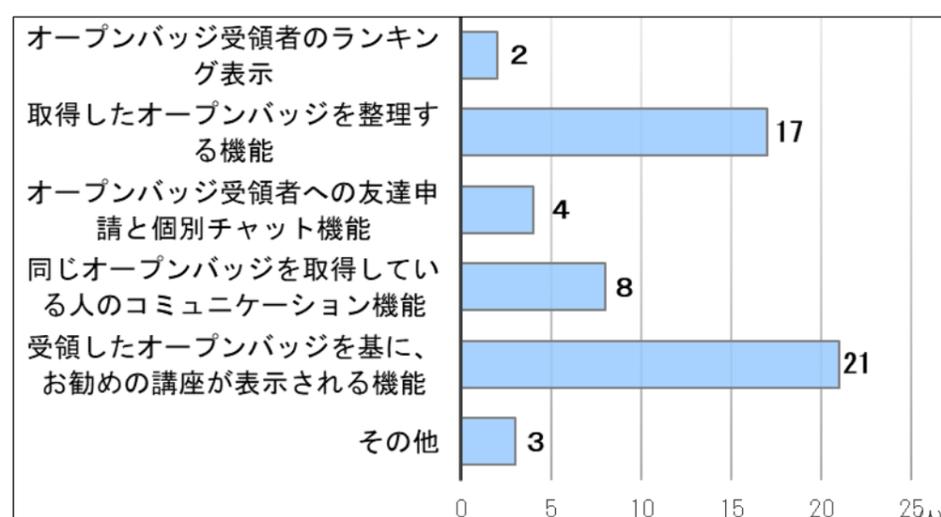


図15 「オープンバッジウォレットに追加してほしい機能（複数回答可）」

n=44

図15は、項番14「オープンバッジウォレットに追加してほしい機能」について、各項目の回答数を示したものである。

一番多かったのは、「受領したオープンバッジを基に、お勧めの講座が表示される機能」と回答した21名で47.7%、続いて「取得したオープンバッジを整理する機能」と回答した17名で38.6%となった。「学び」を通じたコミュニティに関わる項目について、「オープンバッジ受領者への友達申請と個別チャット機能」と回答した人は4名で9.1%、「同じオープンバッジを取得している人のコミュニケーション機能」と回答した人は8名で18.2%となった。

この結果から、「学び」を通じたコミュニティの活性化について、ウォレットの機能として必要としている人は少ないことが分かった。受領者にとってウォレットの機能は、学習履歴のデジタル証明として活用の期待が大きい。

## (2) 受領者交流会での様子

オープンバッジ受領者交流会では、同じ研修・講座のオープンバッジを受領した人同士でグループに分かれたため、具体的な活動内容の交流や悩みの相談等が話題になったグループもあった。各市町で活動されている方々が、オープンバッジを通じてつながることができた。「バッジ受領者同士のつながりやコミュニティの形成」について、「オープンバッジを持っている人がいろんなところにおいて、情報共有できたり、自分の企画のアドバイスをもらったり等ができればありがたい」「情報を載せて、意見を言い合えるというのがコミュニケーションとしてできたら面白い」等の意見が出された。これらのことから、オープンバッジ受領者交流会は、「学び」を通じたコミュニティの活性化に有効であったと考える。

## (3) 受領者交流会振り返りアンケートの結果から

オープンバッジ受領者交流会の振り返りアンケートから、「1. 交流会に参加して」（複数回答可）の回答結果を表10に示す。「楽しかった」と回答した参加者の割合が100%となった。続いて、「もっといろいろな人と交流してみたい」50%、「仕事（活動）へのヒントが得られた」42.9%、「明日もがんばろうという気持ちになった」42.9%となった。次に、「3. オープンバッジ受領者交流会について」（複数回答可）の回答結果を、表11に示す。

表10 「1. 交流会に参加して」の結果

n=14

1. 交流会に参加して	人	%
楽しかった	14	100.0
新しく知り合いになれた	3	21.4
新しい発見があった	5	35.7
新しくやってみみたいことができた	1	7.1
仕事（活動）へのヒントが得られた	6	42.9
明日もがんばろうという気持ちになった	6	42.9
もっといろいろな人と交流してみたい	7	50.0
特に何もなかった	0	0.0

表11 「3. オープンバッジ受領者交流会について」の結果

n=14

3. オープンバッジ受領者交流会について	人	%
定期的開催	4	28.6
受領したオープンバッジごとの交流会	10	71.4
オープンバッジが受領できる他の研修等の情報提供	4	28.6
オープンバッジの活用方法や他のオープンバッジの検索方法等、オープンバッジに関わる演習	2	14.3
特になし	1	7.1
その他	1	7.1

「受領したオープンバッジごとの交流会」と回答した参加者の割合が71.4%となり、今回と同じ、受領したオープンバッジ毎にグループ分けした交流会を希望する回答が多かった。

「2. 新しいコミュニティについて」（記述）において、「「オープンバッジの活用」というテーマだけでもいろいろな提案や意見があり楽しかった」「研修だとそのことばかりの話になるけど、ざっくばらんにいろんな話ができ、意見が聞けて楽しかった」「一つのテーマについて話をすると他の人のアイデアをきっかけに、自分のアイデアも誘発される感覚が楽しかった」「他の市町の状況や事例を聞くこともできて参考になった」「社会教育や生涯学習、公民館について何かしら熱量を持った職員同士がコミュニケーションを取れる場があることによって建設的な意見交換ができることに、心強さを感じた」等の回答があった。

これらのことにより、オープンバッジ受領者交流会は、「学び」を通じたコミュニティの活性化に、有効であったと考える。

## 調査研究の成果と課題

### 1 調査研究の成果

オープンバッジの活用を通して、生涯学習における学習履歴の可視化・デジタル化を行うことは「県民のデジタルリテラシーの向上」や「学びの可視化とモチベーションの向上」に有効であることが分かった。また、その効果を高めるためには、長期的な取組が必要であることが分かった。

### 2 調査研究の課題

今後は、複数の研修・講座においてオープンバッジを発行し、オープンバッジ活用セミナーや受領者交流会等を開催する等して、受領者の意識の変容を分析していく必要がある。また、オープンバッジの認知度がオープンバッジ受領希望に影響すると考える。次年度以降も本調査研究を進めていくことで、生涯学習分野で活躍する方々の学びやスキルを価値付け、更なる学びのモチベーションの向上を図り、社会教育人材の育成につなげる。

## 結 語

2021年にデジタル庁が発足し、2023年6月に閣議決定された「デジタル社会の実現に向けた重点計画」において、「誰もがデジタル化の恩恵を享受することにより日常生活等の様々な課題を解決し、豊かさを真に実感できる「誰一人取り残されない」デジタル社会の実現」が示され、国民がデジタル技術に触れることが重要であると示されている。

この調査研究はまさに、国民がデジタル技術に触れる機会となり、継続的なデジタル技術利用を促すものとなった。しかし、オープンバッジ受領者がデジタル化の恩恵を受けたかというところではない。企業でも、学校教育でもない生涯学習分野において、オープンバッジ受領者がデジタル化の恩恵を享受できるようになるのは、全国的にオープンバッジの発行が進み、受領者が増え、コミュニティ形成が進んだその先である。受領者側だけでなく、受領者が所属する組織が、オープンバッジの価値を知り、受領することを尊重し、そういう人材を活用する意識が無ければならない。オープンバッジの発行が進むにつれ、その恩恵は様々な方に享受され、便利なツールとなる日がやってくる。「あの時オープンバッジを受領してよかった」と思っていただけでこの取組を継続し、発信していきたい。